

大会名 第13回日本認知症ケア学会大会  
会期 2012年5月19日(土)～20日(日)  
場所 アクトシティ浜松 (静岡県浜松市中区板屋町111-1)  
演題名 「認知症ケアにおける作業療法の役割」  
～ご家族へのアンケート調査から～  
発表者 井上景子(医療法人 聖志会 渡辺病院)  
共同研究者 宝来知世、出水麻子、谷本愛子、前田早紀 板井裕美、橋口花子、  
福田恵子、西 幸宏

### 【はじめに】

認知症高齢者に対する薬物療法の効果は十分といえず、認知リハビリテーションの重要性が強調されている。我々は、認知症高齢者に対して認知リハビリテーションの一環として精神科作業療法を実施しているが、ご家族とのコミュニケーションを図る機会は多くなく、ご家族からのフィードバックもほとんどない状態である。今回、入院患者様のご家族に対し作業療法についてアンケート調査を実施し、調査分析したので、その結果を若干の考察を加えて報告する。

### 【方法と対象】

平成23年11月21日から12月5日までの期間、病院玄関にアンケート用紙と回収箱を設置し、入院患者様のご家族に対してアンケート調査を実施した。質問の内容は①作業療法の既知の有無②作業療法の内容への印象③作業療法の希望頻度④季節を意識した作業療法⑤作業療法への期待⑥認知症ケアにおける作業療法の重要性についてであった。

### 【倫理的配慮】

病院管理者の許可を取得、アンケートは無記名で実施し、当院倫理委員会の承認を得た。

### 【結果】

アンケート期間中の在院患者数は平均330名、有効な回答は28名であった。回答者の64%が作業療法の名称を聞いた事があり、65%が当院での作業療法の実施に満足していた。希望実施回数は週3回が一番多く、72%が作業療法に季節感を取り入れて欲しいと考えていた。また作業療法の目的として、気分転換・意欲の向上・症状の安定が順に多く、78%が認知症ケアに作業療法は重要と考えていた。

### 【考察】

入院患者様のご家族の多くは、認知症ケアにおいて作業療法は重要であると考え、その目的は記憶力・記銘力の回復でなく、気分転換・意欲の向上・症状の安定であると考えている事がわかった。今後も作業療法士とご家族とのコミュニケーションの機会を増やし、より一層の啓蒙活動を実施していきたい。